

# 校長室通信

南小国町立南小国中学校

令和元年 11 月 29 日 (金) No28  
文責 狹間卓史



## 共に創る

11月22日(金)、一の宮小学校体育館において、熊本県中学校体育研究発表会阿蘇大会が開催され、益田教諭が本校二年生を対象にバレーボールの授業を行いました。当日は150人を超える参観者がありましたが、どの参観者からも素晴らしい授業だったとの感想をいただきました。

この日を迎えるにあたって、益田教諭は夏休み前から準備に入っていましたが、郡内外の先生方の助言を取り入れながら、何度も授業計画を練り直してのことでした。県大会の授業者になること自体なかなか出来ない経験ですが、それと同様に、一時間の授業を作り上げるのに、これだけの時間と人を費やす経験もめったにないことです。益田教諭にとっては貴重な学びの機会になったはずですし、そういうエネルギーを費やした授業に本校生徒を学ばせることが出来たことも嬉しく思っています。

ただ、今回の一連の取組を見てあらためて感じたことがあります。それは授業は教師と生徒が共同で作るものだという事です。今回、参観された方々からは、授業へのお褒めの言葉とともに、生徒の授業を受ける態度、表情、返事がいいこと等、生徒の姿勢についてのお褒めの言葉が多々ありました。私もその授業を参観していましたが、益田教諭の話を体ごと向いて聞き取り、指示に対して返事を返し、一斉に動く姿。周囲の同級生とコミュニケーションをとり、励まし合って学ぶ姿等々、それは生徒が日常の授業の中でつけてきた力であり、家庭や地域の生活の中で培ってきた力であったと思っています。全員で授業を創り上げようとする意図が感じられた授業でした。

授業が終わって、多くの生徒が「楽しかった」と笑顔一杯で答える姿と、益田教諭が、生徒に何度も「ありがとう」という姿が何とも素敵な光景でした。こういう時間をこれからも積み上げていける本校でありたいと思っています。



【 益田教諭と二年生 】



【 注目の中、頑張りました 】

## 関わり続ける

この時期の中学校には県内外の公立・私立高校の先生方が受験勧誘の挨拶においでになります。先日も県内のある私立高校の先生がお見えになりました。その先生は数年前までその高校の校長をされていた方でした。(現在はその高校の系列大学の「入試アドバイザー」というポストに就かれています。)私とその校長先生(当時)に初めてお会いしたのはある中学校の教頭をしていた時(今から4年前)でした。3年部職員が不在で私が代理で話を伺ったのですが、どのように生徒を育てていきたいのか、どういう学校でありたいのかという「熱」が伝わってくる校長先生でした。そしてその年、縁あってその勤務校から卒業生がお世話になる事になりました。

その後、私は南阿蘇の小学校勤務となり転出するのですが、その校長先生は、私が転出した小学校にも挨拶においでくださいました。そして前任校から進学した一人の生徒の近況を報告してくださいました。高校の校長先生が小学校にまでおいでになるのは全くもって異例の事です。さらに嬉しかった事は、その高校の何百人といる生徒の中の一人の生徒について、日頃の学習や生活状況をきちんと把握していらっしゃる事でした。日常生活での何気ないやりとりや寮生活での様子等、丁寧に関わってくださっていることが伝わってきました。今回も含めて数回しかお会いしたことがない先生ですが、私にとっては大きな出会いでした。「関わり続ける」という私が目指す教師像がそこにはありました。

これから本校でも杉本教諭を中心に本格的な進路業務に入っていきます。進路選択の際は、何よりも生徒が行きたい、ご家庭の方が行かせたいと思える進路先である事が第一ですが、送り出す側の立場の者としては、縁あって生徒の成長に関わらせてもらったからこそ信頼できるところに送り出したいという思いも強くあります。今年の3年生30人、それぞれにとって最良の進路選択・決定が出来ますように、その思いに職員全員で寄り添うとともに、関わり続けていきたいと思っています。

【 共に頑張る三年生 】→

